

ソーシャル & エコ・マガジン

シェアハウスから「住み開き」まで。あたらしい住み方特集！

ソトコト

No. 159
SOTOKOTO
September 2022
800YEN

特集

シェアして暮らす家

別冊付録：チビコト



『がれきに花を
咲かせましょう』





RIO+20



●本会議場には世界191か国の様々なメッセージ。●本会議場のエントランス。●RIO+20最大のサイドイベントとなったピープルズサミット会場フランメンバーク。●本会議場の模様はリアルタイムで配信され、NGOやメジャーグループが議論に参加した。●国連持続可能な開発会議＝Rio+20のロゴ。●世界の少女セヴァン・スズキが20年ぶりにリオに帰ってきた。

世界は驚くべき速さで変化しつつある。世界の未来は「市民」だ。ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで10年ぶり、3度目の地球サミットが開催された。191か国、約4万5000人が集まる地球サミット。市民サイドの発表では約8万人がリオへと集まったという。国連の歴史、最も多くの市民が参加した会議。各国首脳が集まる本会議のはかに関連イベントが約500、非公式サイドイベントを入れたと約3000もの

地球サミット現地レポート。

The Future We Want——我々が望む未来 ブラジルで感じた希望の種。

持続可能な社会を目指す国連最大級の会議「地球サミット」が、10年ぶりにブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された。世界191か国から集まった市民による地球の祭典をレポート

text by Tetra Tanizaki (地球サミット2012 Japan 副代表)
photographs by Satoshi Maeda, Rinaldo Vasconcellos & Tetra Tanizaki
協力：地球サミット2012 Japan、ワールドシフトネットワーク・ジャパン、地球環境基金

サイドイベント。インターネットを通じて世界各地での参加者は国連の発表で5000万人といわれる。政府のみならず、NGO、企業、学生など様々な立場で、環境、社会、経済、人権、緊急を要する様々な課題に対して議論された熱気あふれる2週間。今回の成果文書は「我々が望む未来 (The Future We Want)」と2015年以降の持続可能な開発目標 (SDGs (Sustainable Development Goals))、グリーンエコノミー、制度

枠組み、その後の項目に関して合意がなされた。GDPを決定する新たな指標に関しても議論がスタートする。

今回のサミットは希望と失望、期待と無関心が同居していたといえる。人類の未来にとても重要なササンス(最後のチャンス)だと考えている人々にとっては、このようにない失望だった。会議の緊急性と重要性を理解している人々があまりにも少なく、メディアに注目されなかった。

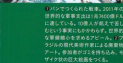
しかし希望は残った。無残なことはできないほどの新しいアクトも生まれている。これまでの会議ではありえない規模の市民参加がタイアロッド、多様なセクターが被害を越えて対峙するこの重要なイベント。インターネットによる新しい会議の在り方、国連はそのプラットフォームとしての機能を模索しはじめた。

国連がクラウド化し、誰もが地球の未来プロセスに参加できるとしたら、地球市民の在り方も変わるに違いない。それが今年生まれた希望。

+ point 1

RIO+20とは？

国連持続可能な開発会議 (Rio+20)＝地球サミット。6月20日から22日までリオ・デ・ジャネイロ (ブラジル) で開催され、国連加盟193か国及び30オブザーバー (EU、パレスチナ、パナマ) の約100名の首脳及び多数の閣僚が参加。ほか各国政府関係者、国連機関、地方自治体、国際機関、企業及び市民社会から約4万5000人が参加し、成果文書「我々が望む未来 (The Future We Want)」を合意した。



パンでつくられた戦車。2011年の世界的な重要運動は1月30日（金）に達している。10億人を超えて苦しむという事実にもめげず、世界の警察官心をなやませるアビード。77パワフルの現代美術作家による環境アート、参加者のゴミを持ち込み、セザイクの巨大絵画をつくる。

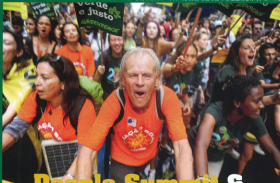
今回の地球サミットで大きな希望を実現させたのは世界市民ムーブメントの結集。ピープルサミットだ。目的は市民を組織化することによる政治的パワーを発揮させること。ピープルサミットにある広大な公園に世界市民から集まった市民の数は約5万人。ローカル市民による企画、有志企画、展示、さらにアーティスト、インベーター、そして先住民が合流する。

サミット本会議に先駆けてはじまったバーナムネット会合は市民セクターと市民に知見を共有し、公正な社会と環境を求めた人々の会合を形成、その成果を発表していく。エネルギーや金融、環境、食料など、問題を断片的に扱うのではなく、環境、社会、経済の3つを軸に現代の世界の危機について話し合う。新しいパラダイムを市民によってつくり、これからの世界の政策アジェンダを提言することが最終的なピープルサミットのゴールと位置づけられた。

10日、会合に達しない国連環境文書の各国の交渉が打ち明かれ、妥協の最終案が提示された。ピープルサミットのスポークスマンは国連の合意文書を持しないことを発表した。ここに至り、市民の国際会議への失

望は、自らの手で未来を創造するといふ決意表明となり、オオのフラメンゴパークを包み込んだ。もともと

リオ・セントロ市街でのグローバルムーバイゼーション。約8万人の一再デモ。持続可能な公平な社会に向けてアビード。



People Summit & Global Mobilization

ピープルサミット&グローバルムーバイゼーション

市民の力が結集しました。

途上国では各国のテーマのグリーンエコノミーへの提議が高まっていた。グローバル資本主義そのものに大きな不信感を持っている。そこにブラジル政府がまとめた具体性にかける成果文書案への不満が一気に爆発した形となった。そして10日、オオ・セントロ旧・市街を約8万人の市民が占拠した。ピープルサミットは一日の活動をグローバルムーバイゼーション・デーと位置づけ、リオやブラジル主要都市にてデモや一斉行動が行われた。

「オオから始まる持続可能な開発目標の話の合意は、人々のイマジネーションを喚起し、社会を変えられる可能性を持っている。そのためにはさらにシンブルな言葉が必要だ」(ジェフリー・サントス)

未来は変えられる。失望を希望に変えるプロセッサが動いた。

point 2

史上最大級の市民集会、ピープルサミット。

Rio+20に向けて世界の市民団体が主催する世界最大規模の市民サミット (Cidade dos povos) が、リオのフラメンゴパークにて8月15日〜23日まで開催された。庶民の交流が大きなウェイトを占める国連の会議に対して、市民の立場での地球サミットとして開催。20日には参加するNGOによる約8万人の一再デモ「グローバルムーバイゼーション」が行われた。



リオの環境宇宙ファンダ・シヴァ。バイオバイザーに関するワークショップなどで講演。持続可能な未来へのコミュニティの関わり方や様々な場に関するキャンペーンを展開。巨大な地球のコミュニケーションを掲げて多くの人々。リオン・キャピタリズムを掲げるNGO。4. 世界市民のグリーンビジネス。7. 市民に開かれた国家機関の市民に直接対する教育。8. 世界のユースグループの中心人物。9. アラカン。ワールドシフトメッセージは「絶望」から「愛と光へ」。

先住民族サミットとは？

世界先住民族会議。1992年の地球サミットの時と同じジャカルタバダ地区に於て、オカ（Kari-Oca）村を拠点、ブラジル国内から20部族約400名、海外26か国から約1500名が参加した。先住民族による90×20宣言「カリオオカ2（Kari-Oca2）」を発表。国連会議で認められるグリーンエコノミーは地球を「ドム」とし、人間性で何一つ損傷を與えず「人間」に対する恩恵、であると思われ、先住民族による90×20宣言（後述）
http://infogreen.jp/sp/archives/267

ある民族は、現在の地球とすべし、生命が常態な危機の状況にあると考える。我々は、現在の発展のモデルは危機の道を進み続けていると考える。我々先住民族は、こうしたアブノーマリチによって恐ろしい負の影響を継続してきた。これらの脅威は、自主的な孤立の状態で、ある民族にまで及んでいる」

先住民族の代表の一人は語る。「われわれは変化を望んでいない。何千年も何万年もずっと同じ生活をしていた。これから変えるつもりはない」。先進国の文明の在り方、リオの会議そのものに大きな疑問を投げかける。グリーンエコノミーに關しても「先進国が新しいドアを缺のドアに推し替えて走りつけよう」と語る。「持続可能な発展のためには、国家は先住民たちの伝統的な資源管理の方法を認めなくてはならない。地球の均衡を破壊し、季節を抜く、異

智慧を持つものは多くを語らない。しかし今何ははっきりと近代文明の在り方に強い意を示した。リオ・サントロにはど近しい森のなかで開催された「世界先住民族サミット」で

ある。ブラジル国内外の先住民族のリーダーたちが集結。先住民族によるリオ20宣言「カリオオカ2」を発表した。「我々は、現在の地球とすべし、生命が常態な危機の状況にあると考える。我々は、現在の発展のモデルは危機の道を進み続けていると考える。我々先住民族は、こうしたアブノーマリチによって恐ろしい負の影響を継続してきた。これらの脅威は、自主的な孤立の状態で、ある民族にまで及んでいる」



世界各國の先住民族たちがそれぞれの文化・習俗のまますみット会場へとやってきた。南米の先住民族の多くが陶器によって暮らしが豊かされている。それぞれの文化の多様性とこれまでと対峙するべく、多様な文化を主張。



先住民族サミット

この智慧に耳を傾ける。

常気象を引き起こし、命を私有化し、人間性の特長を脅かすといった解決法を容認することはできない」。

モンテ・ダムの着工が決まり、水没する熱帯雨林は約500平方キロに及ぶ。これは東北の震災で最大の被害となった宮城県の水没範囲に匹敵する。そこにいるインディオスのカヤボート隊を中心に先住民族が生活圏を解われる。その数は4万人に及ぶともいわれる。

5月24日は南米・先住民族にとっても重要な祭りであるインディイライ（太陽の祭り）。22部族のオカ（巨大な集合家屋）が建てられ、異なる火を灯した。1軒は討論会場、もう1軒はインターネット接続として先住民族の声を世界へ発信。20年前のリオサミットと同じ場所に先住民族村が建てられた。



谷崎テトラ（写真家）

たにぎき・てら ●写真作家＆音楽プロデューサー。地球サミット2012 Kari-Oca2 代表。ワールドシフト・ネットワーク・ジャパン代表。愛知国立芸術大学新築助成員。『Kari-Oca2』では音楽・伊勢谷友介と共にパーフォーマンスをとっている。

